慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	物価の月次的変動
Sub Title	
Author	高城, 仙次郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1927
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.21, No.8 (1927. 8) ,p.971(1)- 1008(38)
JaLC DOI	10.14991/001.19270801-0001
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19270801-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

各病院眼科
諸大醫御用
慶應義塾大學
病院眼科御指定

正確ナル眼鏡

清野眼鏡店

東京市四谷區麹町十三丁目
電話四谷四五四三番

成人　八月號　第二卷　第十二號

▲國際政情の不安を何と見るか　林毅陸
▲議院政治の起原　占部百太郎
▲人口問題と社會主義　小泉信三
▲人口學說と經濟思想　高橋誠一郎
▲日本の海運　增井幸雄
▲藝術と實生活　金子筑水
▲細菌の生活　千種峯藏
▲親鸞聖人と日蓮上人　中村孝也
▲山東出兵　西澤英一
▲三國交涉の經濟　常松三郎
◎漫畫詩人　茅野蕭々
◎謠曲の幽靈　戶川秋骨
◎笑を高唱す　米本とし枝
◎烏の啼く音を聞く心持　小澤愛圀

日本成人敎育協會發行
定價金廿五錢

發賣所　東京市麻布區本村町十八　大岡山書店

三田學會雜誌　第二十一卷　第八號

物價の月次的變動

高城仙次郎

私は曾て金利の月次的變動を一寸調べて見たことがある。(『利子歩合の重要問題』第五章「利子歩合の季節的變動」參照)最初に私が材料として用ひたのは英蘭銀行の公定割引歩合であつた。此割引歩合には、千八百五十年より千八百九十九年に至る五十ヶ年間に於ける各十年を一期とする五期の月別平均——一月より十二月に至る月次的平均——の計算されたものがあるから、此平均に基きて、更に五十ヶ年の月次的總平均を計算した。斯くの如く月次的平均をば多年間の統計を基礎として計算したのは、次の理由に依るのである。利子歩合は月から月へと變動すると同時に、年から年へと變動することもある。例へば或る金融市場に於ける

利子歩合が、平年には十二月中に最も高く、六月中に最も低きものであるにも拘らず、或る年の六月の利子が、特種の事情の爲めに、其の前年の十二月の歩合よりも却つて高くなることがあり得る。夫れ故に、何れの年と云ふことなくして、利子歩合が二月より十二月まで毎月何ういふ風に高下して行くかを知るには、一年丈けの利子歩合の變動を觀るのみでは誤りを生じ易い。正確なる結果を得るには、是非共數ヶ年乃至十數ヶ年間の月次的統計に就きて、月別的平均を計算しなければならぬ。さすれば、或る二三の年の特種的騰落は相殺せられて、眞實の月次的變動――或は平年の月次的變動――が現はれることになる。

扨て此理由に基きて、計算したる英蘭銀行公定割引歩合の五十ヶ年間の月次的平均は左の如くである。

	分	
一　月	3.9466	（＋）又は（－）
二　月	3.6362	（－）
三　月	3.4320	（－）
四　月	3.3338	（－）
五　月	3.5092	（＋）
六　月	3.3186	（－）
七　月	3.1752	（－）
八　月	3.2538	（＋）
九　月	3.3186	（＋）
十　月	3.8306	（＋）
十一月	4.2378	（＋）
十二月	4.1232	（－）

右表に現はれたる如く、英蘭銀行公定歩合の月次的平均は一月より四月まで漸次低落し、五月に一少反動を呈したる後六月には再び低落し、七月には最低率を示してゐる。夫れより平均歩合は漸次高くなり、十一月には最高點に達し、十二月には又々低落し、其趨勢は一月より四月まで持續されてゐる。從つて五月を例外として一時之を無視すれば、英蘭銀行公定歩合の平均は七月を最低とし、十一月を最

高として、滑かに波動してゐることが明かになる。

是れは前世紀の後半に於ける月次的總平均であるが、本世紀に入りても同一の狀態を示してゐるか否かを知る爲めに、千九百年より千九百十三年に至る十四ヶ年間に於ける月次的平均を計算したるに、左の如き數字を得た。（千九百十四年以後は戰爭の爲めに金融界が變調を呈してゐたから、之を除くことにした。）

	分	
一　月	4.26	（＋）又は（－）
二　月	3.86	（－）
三　月	3.71	（－）
四　月	3.58	（－）
五　月	3.45	（－）
六　月	3.20	（－）
七　月	3.14	（－）
八　月	3.20	（＋）
九　月	3.44	（＋）
十　月	3.98	（＋）
十一月	4.45	（＋）
十二月	4.40	（－）

右表に現はれたる如く、月次的平均が七月を最低とし、十一月を最高とする點に於ては、十九世紀の後半中に於けると同樣であるが、最低月である七月より最高月である十一月に至る月次的騰貴も、最高月たる十一月より最低月たる七月に至る月次的低落も共に滑かであつて、少しも逆戻りがない。

然らば我國に於ける金利も同樣の月次的循環を呈してゐるか。日本銀行の公定歩合は英蘭銀行の公定歩合程に頻繁に更改せられないから、金融市場の狀態を必ずしも忠實に反射してゐると看做され難い故に、假りに東京市内の最低割引日歩を取ることにする。左表は明治三十八年より大正二年に至る九ヶ年間に於ける此日歩の月別平均である。

月	錢	(+)又は(−)
一　月	1.529	
二　月	1.490	(−)
三　月	1.468	(−)
四　月	1.479	(+)
五　月	1.511	(+)
六　月	1.501	(−)
七　月	1.507	(+)
八　月	1.501	(−)
九　月	1.518	(+)
十　月	1.506	(−)
十一月	1.527	(+)
十二月	1.561	(+)

右表に示す如く、三月の日歩は最も低く、十二月の日歩は最も高い。然し此兩端の間に於ける變動は、英蘭銀行の公定歩合に於けるが如く滑かで無い。即ち最低點である三月より最高點である十二月までと、最高點たる十二月より最低點たる三月までの上り坂と下り坂とが共に單純なる斜面でなくして、途中に二三の小波を打つてゐる。然しながら、大體に於て日歩の高低を標準として、一年をば(一)高率期、(二)低率期、(三)中間期の三期に分かつことが出來る。其の中高率期に屬する月は十一月、十二月並に一月の三ヶ月、低率期に屬する月は二月三月並に四月の三ヶ月、中間期に屬する月は五月より十月に至る六ヶ月である。斯くの如く十二ヶ月を區分すれば、矢張り我が國に於ても、金利が月次的でなくとも、少くとも季節的に一定の規則に依りて變動してゐることが明かになる。

斯くの如く、金利が季節的又は月次的に比較的規則正しく變動するのは、冬期に於ては、取引が多く、夏期に於ては取引が少なく、其の結果として、金融に繁閑の差を生ずるからである。然し若しそうであるとするなれば、物價にも季節的若しくは月次的の規則正しき變動がなければならぬ筈である。事實は果して然るか否かを知る爲めに、多數の貨物の東京卸賣並に小賣相場の月別平均を試算したが、紙面の都合もあるから、其の中九種を選んで左に掲ぐることにした。其の第一は東京

市内に於ける砂糖の卸相場である。

砂糖卸相場（天光百斤）

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
明治三十四年	九・六五一	九・六〇〇	九・四四五	九・二六九	九・二六四	九・五〇二	九・六九六	九・八四五	九・八四五	一〇・七一三	一〇・八〇〇	一〇・八〇〇
三十五年	八・二三八	七・八四〇	七・六四八	七・六〇〇	七・六〇〇	七・五三〇	七・一〇四	七・五三八	七・五三八	七・〇〇八	七・一五二	
三十六年	七・一〇〇	七・一〇〇	七・三三八	七・六四八	七・七四四	一〇・〇〇〇	一〇・〇四八	一〇・〇〇〇	一〇・六七二	一〇・〇一六	八・二五六	
三十七年	七・五八四	七・六一六	八・三五二	八・六〇八	八・九二八	九・五一〇	一〇・一七八	一〇・〇四〇	一〇・七一三	一〇・二四〇	一〇・五七六	一〇・五七六
三十八年	一四・五二八	一四・一九二	一四・二五六	一三・六〇〇	一三・四一八	一二・六〇八	一二・四九六	一二・四四八	一二・五〇〇	一二・四九六	一二・四九六	一二・四九六
三十九年	一二・〇三二	一二・〇六四	一二・〇八〇	一二・一四四	一一・九六八	一一・六四八	一一・七八〇	一二・〇三二	一二・〇七一	一二・二四八	一二・二四八	一二・二四八
四十年	一二・〇〇〇	一一・八八八	一一・七四四	一一・七七八	一一・七七六	一二・〇〇〇	一二・二九六	一二・二九六	一二・二九六	一二・二九六	一二・二九六	一二・二九六
四十一年	一二・六〇八	一二・一六八	一二・九四四	一二・一三六	一二・一四八	一二・六九六	一二・六九六	一二・六九六	一二・六九六	一二・六九六	一二・六九六	一二・六九六
四十二年	一三・八四〇	一三・六九六	一四・〇〇〇	一四・二〇八	一四・〇九六	一四・〇〇〇	一四・〇〇〇	一三・四七七	一四・〇九六	一四・二八八	一三・八七二	
四十三年	一二・九七六	一二・九六〇	一三・〇〇八	一三・二九六	一三・二八〇	一三・二三二	一三・九一三	一三・六九六	一三・八〇八	一三・一三六	一三・二〇〇	
四十四年	一三・〇〇八	一二・九六八	一二・九五二	一二・八〇〇	一二・四九六	一二・九四四	一二・五〇四	一二・五〇四	一二・二四〇	一四・六一三	一五・九〇四	
四十五年	一五・四八八	一五・五三六	一六・四九六	一六・三五二	一六・〇六四	一五・〇〇〇	一五・八二四	一六・二四〇	一六・五〇四	一六・六〇八	一七・〇〇八	一七・一〇四
大正二年	一五・六〇〇	一五・五〇四	一五・六五二	一五・二三二	一四・九六〇	一五・二六四	一五・二六四	一五・二五二	一五・五九二	一六・一〇八	一五・八〇八	一五・七四四
三年	一四・八九六	一四・六五六	一四・五一二	一四・四六四	一四・三二〇	一四・四八〇	一四・〇〇八	一七・二六四	一八・〇〇四	一七・七六	一八・六〇八	一八・六〇八
四年	一六・五二八	一五・六九六	一六・〇八〇	一五・四七二	一五・八八八	一七・一〇四	一七・九一〇	一七・六四八	一七・四八〇	一六・〇九六	一五・九五六	一六・四〇〇
五年	一七・〇四〇	一七・二八〇	一七・一〇四	一七・六〇〇	一八・四〇〇	一八・四〇〇	一八・四〇〇	一八・四六四	一八・四〇〇	一八・三六八	一八・四四四	一九・六三一
六年	一八・七五二	一七・八五六	一八・一〇〇	一七・九五六	一八・五六〇	一九・一〇四	一九・三三六	二〇・一四四	二〇・一三八	一九・五八四	一九・七六〇	一九・三四四
七年	一七・六九六	一九・一二〇	一九・四七二	二〇・九九二	一九・三七六	一九・六六四	一九・七二八	二〇・三三六	二〇・九六〇	二一・八八八	二一・四四〇	
平均	一三・三〇九	一三・二五七	一三・三九〇	一三・四四九	一三・四〇五	一三・六八七	一三・七四一	一四・〇七九	一四・三六五	一四・五九五	一四・五一三	

右表の月別平均を觀るに、最低は二月の十三圓二十五錢七厘であつて、最高は十一月の十四圓五十九錢五厘である。然らば此最低月と最高月との間に於ける上り坂と下り坂とは共に單純なる斜面になつてゐるか。之を知る爲めに、圓錢を以て言現はしたる平均價格を用ふるは、頗瑣であつて、明瞭に高低を指示することが困難である。夫れ故に、平均價格の代りに、平均價格の月別的百分比例を用ふることに定めた。此百分比例は、右表に掲げたる明治三十四年以降大正七年に至る十八ヶ年間に於ける月々の相場を月別的に合計し、次に、此一月より十二月に對する十二箇の月別的合計の平均を求め、此平均を以て各月の月別的合計を除し、且つ通覽に便ならしむる爲めに、各其の商に一〇〇を乘じて計算したものである。此方法に依りて計出したる砂糖卸相場の月別的百分比例は左の如くである。

月	百分比	
一月	96.1	(+)又は(−)
二月	95.7	(−)
三月	96.7	(−)
四月	97.1	(+)
五月	96.8	(+)
六月	98.8	(−)
七月	99.2	(+)
八月	101.7	(+)
九月	103.7	(+)
十月	103.9	(+)
十一月	105.4	(+)
十二月	104.8	(−)

右表に示すが如く、最低月の三月より最高月の十一月に至る上り坂は、五月を除きては單純なる傾斜面を構成し、最高月の十一月より最低月の二月に至る下り坂は何等の例外なく、滑かなる斜面になつてゐる。

右の循環は著しく規則正しきものと看做すことが出來るが、其の計算には物價の暴騰した戰爭期も含まれてゐるから、物價騰貴時代を除きたる期間、即ち大正三年十二月までの月別平均價格の百分比例を試算したるに、左の如き數字が出た。

月	百分比例	
一月	96.6	(−)
二月	96.1	(−)
三月	97.0	(+)
四月	96.9	(−)
五月	96.4	(−)
六月	97.9	(+)
七月	98.3	(+)
八月	101.1	(+)

九　月	103.9	(＋)
十　月	104.8	(＋)
十一月	105.7	(＋)
十二月	105.3	(－)

右表に於ても、最低月は二月、最高月は十一月であつて、下り坂は單純なる斜面である。上り坂は前表にては五月に一度爪先下りになつてゐるに反し、右表にては、四五の兩月が爪先下りになつてゐる。然し爪先下りと云ふも、四月の低落は三月の九七・〇より九六・九に下つたに過ぎないのであるから、全然無視して、四月は三月と同一の水準を保つてゐたと看做しても差支あるまい。

次に掲ぐる表は明治三十四年より大正七年に至る十八ヶ年間に於ける中等正米一石の東京卸相場と其卸相場の月別平均とを示したものに外ならない。

正米卸相場（中米一石）

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
明治三十四年	二・六九七	二・五二一	二・四〇六	二・一九九	二・〇〇〇	二・五二〇	二・四五五	二・二五五	二・七〇九	二・七九〇	二・二二〇	二・八〇〇
三十五年	10・六10	10・九〇〇	10・九〇九	二・〇〇〇	二・〇〇八	二・四五五	二・二六	二・四〇五	二・二九九	二・〇〇三	二・四〇五	二・四〇四
三十六年	一四・三三〇	一五・一三〇	一五・一二〇	一五・〇六〇	一五・四四〇	一五・九二〇	一四・八四〇	一三・八一〇	一三・〇二〇	一二・七二〇	一二・五七〇
三十七年	一二・五七〇	一二・五三〇	一三・〇三〇	一二・八一〇	一三・〇〇〇	一二・五九〇	一三・七六〇	一四・〇〇〇	一三・〇〇〇	一二・一二〇	一二・一三〇
三十八年	一二・四二〇	一二・二四〇	一二・一七〇	一一・九五〇	一一・八六〇	一二・一二〇	一二・一六〇	一三・五六〇	一四・一〇〇	一四・四六〇	一三・八七〇
三十九年	一四・〇一三	一四・〇六七	一四・一六〇	一四・〇四五	一四・三九〇	一四・七四〇	一四・五八五	一四・四六〇	一四・五八〇	一五・一六七	一五・七一〇	一五・六三〇
四十年	一五・五三〇	一五・八一七	一五・八七〇	一五・六七〇	一六・一九〇	一六・四六〇	一六・四六〇	一七・〇七〇	一七・三四五	一七・八二〇	一七・五六〇	一六・九二五
四十一年	一五・四一三	一五・七六〇	一五・七二三	一六・〇一〇	一六・〇四〇	一六・五八七	一七・一二三	一七・二〇三	一七・六〇七	一七・五四三	一五・一七〇	一三・八九三
四十二年	一三・八二七	一三・七四七	一三・六五七	一三・五二〇	一四・〇〇三	一四・三一〇	一三・四八〇	一三・九三三	一二・九九三	一二・七四七	一二・三三〇	一一・一七〇
四十三年	一一・二一〇	一一・七一〇	一二・一八七	一二・六四〇	一二・九〇〇	一二・五二七	一二・三五三	一二・六六三	一四・三七〇	一五・二一〇	一五・一六七	一五・〇五〇
四十四年	一五・一〇三	一五・三六〇	一六・〇一三	一六・七九七	一六・九三七	一七・六一七	一八・七四〇	一九・五八〇	二〇・〇〇七	一八・四五三	一六・七九三	一六・八〇〇
四十五年	一八・一五〇	一九・四三〇	二〇・〇八〇	二〇・二四三	二〇・七五七	二二・八八七	二三・二八〇	二二・四二七	二〇・二八三	二二・〇五〇	二二・〇二〇
大正二年	二二・四九三	二二・九〇七	二二・一九七	二二・三六〇	二二・四二〇	二二・二〇〇	二二・八〇〇	二二・七四〇	二〇・九三〇	二〇・三〇〇	二〇・〇一〇
三年	一九・三三〇	一八・三五〇	一八・三七〇	一七・三五〇	一六・三八〇	一六・七四〇	一六・九七〇	一六・八一〇	一五・六〇〇	一三・四九〇	一二・〇〇〇
四年	一三・四四〇	一四・一八〇	一四・一八〇	一三・六四〇	一三・四三〇	一三・二四〇	一三・四三〇	一二・四三〇	一二・三三〇	一二・三六〇	一二・二〇〇
五年	一三・六〇〇	一三・〇八〇	一二・七一〇	一二・九五〇	一二・二四〇	一二・一一〇	一四・〇一〇	一五・二〇〇	一五・二七〇	一五・七八〇	一六・七〇〇
六年	一六・二四〇	一五・八一〇	一五・九五〇	一六・二八〇	一七・二七〇	二〇・三〇〇	二一・九三〇	二一・一四〇	二二・八二〇	二三・九八〇	二三・八六〇
七年	二四・〇三〇	二五・一三〇	二六・五三〇	二七・三八〇	二七・六七〇	二八・六八〇	三〇・五九〇	三九・一八〇	四四・四一〇	四〇・〇三〇	四〇・五九〇
平均	一五・三三六	一五・四二八	一五・五七一	一五・五五三	一五・七九〇	一六・六六一	一七・四四〇	一七・三三六	一七・二四〇	一六・九七七	一六・八二九

右表の數字に基きて、大正三年までの月別平均相場の百分比例と、大正七年まで

の月別平均相場の百分比例とを計算し、之を對照せしむれば、左の通りになる。

月	大正三年まで百分比例	(+)又は(−)	大正七年まで百分比例	(+)又は(−)
一月	96.2	(−)	93.1	(−)
二月	97.4	(+)	94.4	(+)
三月	98.2	(+)	95.2	(+)
四月	97.6	(+)	95.1	(−)
五月	98.9	(+)	96.6	(+)
六月	100.9	(+)	99.1	(+)
七月	103.1	(+)	101.9	(+)
八月	105.3	(+)	106.7	(+)
九月	104.9	(−)	105.7	(−)
十月	101.1	(−)	105.4	(−)
十一月	99.3	(−)	103.8	(−)
十二月	97.0	(−)	102.9	(−)

右表に示す如く、大正三年までの統計を取るも、大正七年までの統計を取るも、最低月は共に一月であつて、最高月は八月である。又、大正七年までの百分比例に於ては、下り坂は全く滑かである。之に反して上り坂は四月に一度爪先下りとなるが、他は滑かである。次に大正三年までの月次的變動を觀るに、下り坂のみならず、上り坂も全く單純なる斜面を構成してゐる。尤も大正七年までの月次的變動中の上り坂が四月に一寸爪先下りになると云ふも、三月の九五・二に對して九五・一に下るに過ぎないのであるから、是れは度外視しても差支ない程度のものであると云ひ得る。

尙ほ米價が九月より次第に低落するのは、云ふまでもなく、新米が漸次市場に供給せられるからである。而かも其低落の趨勢が一月までしか繼續せず、二月より米價が再び騰勢に向ふのは、在米が次第に缺乏して行くからである。

次に載するは、同じく東京市中に於ける明治三十八年以降大正七年に至る十四ヶ年間の小麥一石の月次的卸相場並に其の月別平均である。

小麥卸相場（本場中一石）

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
明治三十八年	10.468	10.460	11.110	11.410	11.470	11.410	10.470	10.470	10.400	10.180	10.120	10.170
三十九年	10.000	9.860	9.850	8.810	8.610	8.030	8.850	8.860	9.050	9.460	9.910	9.850
四十年	9.960	10.050	10.460	10.460	11.150	10.410	10.050	10.050	10.460	11.050	11.470	11.050
四十一年	10.460	10.400	10.400	10.460	10.470	10.110	9.150	9.460	9.470	9.860	10.010	10.000
四十二年	10.150	11.060	11.000	11.460	11.460	11.410	10.150	10.050	10.460	10.470	11.460	11.460
四十三年	11.460	11.460	11.150	11.150	11.150	10.150	9.410	9.460	10.460	10.460	10.150	10.000
四十四年	10.050	10.400	10.400	10.050	10.100	10.060	9.460	10.050	10.000	10.000	10.000	10.460
四十五年	11.000	11.050	11.470	11.460	11.460	11.110	11.060	11.050	11.150	11.460	11.400	11.150
大正二年	11.460	11.400	11.050	11.050	11.050	11.050	11.470	11.060	11.150	11.460	11.410	11.400
三年	11.400	11.400	11.400	11.460	11.470	11.060	10.060	10.460	11.400	11.470	11.400	11.050
四年	11.150	11.470	11.050	11.050	11.050	11.110	9.050	10.050	10.050	10.050	11.460	11.060
五年	11.060	11.050	11.400	11.460	10.060	9.470	10.060	11.050	10.470	11.400	11.060	11.460
六年	11.050	11.050	11.400	11.050	11.470	11.050	11.050	11.470	11.470	12.050	12.050	11.460
七年	11.460	11.470	11.050	11.470	11.460	11.460	11.460	11.050	11.060	11.460	11.050	11.460
平均	11.061	11.050	11.050	11.050	11.061	11.050	11.050	11.061	11.050	11.061	11.061	11.061

右表の統計に基きて大正三年までと大正七年までとの月別平均の百分比例を比較すれば左の如き結果を呈する。

月	大正三年まで 百分比例	大正三年まで (+)又は(−)	大正七年まで 百分比例	大正七年まで (+)又は(−)
一月	100.3	(−)	98.0	(−)
二月	102.7	(+)	102.2	(+)
三月	103.7	(+)	102.3	(+)
四月	103.5	(−)	102.5	(+)
五月	102.5	(−)	102.1	(−)
六月	98.5	(−)	97.6	(−)
七月	94.4	(−)	93.1	(−)
八月	95.7	(+)	98.0	(+)
九月	98.2	(+)	99.1	(+)
十月	99.3	(+)	100.2	(+)
十一月	100.4	(+)	101.2	(+)

十二月　100.8　（＋）　103.8　（＋）

大正三年までの月次的變動を觀るに、三月が最高で七月が最低である。又下り坂は完全なる斜面になつてゐるが、上り坂は一月に於て一度爪先下りになつてゐるが、他は滑かである。大正七年までの變動に就きて觀るに、最低月は大正三年まで、と同じく七月であるが、最高月は三月でなくして、四月になつてゐる。然し下り坂は矢張り滑かである。上り坂は大正三年までと同じく一月に一度爪先下りとなる以外に於て完全なる斜面を作つてゐる。

尙ほ小麥の市價が七月に最も低落するのは小麥の收穫期の影響を受くるものと思はれる。

次に掲ぐるは同じく東京市中に於ける明治三十八年より大正七年に至る十四ケ年間の支那產大豆一石の月次的卸相場と其相場の月別平均とである。

大豆卸相場（支那產白一石）

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
明治三十八年	九・七九〇	九・四四〇	九・八四〇	一〇・〇三〇	一〇・一八〇	一〇・〇一〇	九・八一〇	九・九九〇	九・九九〇	九・二六〇	九・二四〇	九・六一〇
三十九年	九・六五〇	九・六三〇	九・六〇七	九・八三三	八・五七〇	九・五八三	九・五九七	九・三九〇	九・三八七	九・三五七	八・九六〇
四十年	九・一三七	九・二六〇	九・三八〇	九・八七三	一〇・一五三	一〇・三〇七	九・五九七	九・三九〇	九・三八七	九・一六七	九・八〇三
四十一年	九・〇七七	九・一〇三	九・一二七	九・一〇〇	一〇・四七三	一〇・五二七	一一・〇〇三	一一・〇三七	一〇・六七七	九・一六七	八・九七三
四十二年	七・〇八三	七・二〇〇	六・九二三	六・八〇〇	七・三五〇	七・五六〇	七・八二三	七・九八〇	七・二七〇	六・九七三
四十三年	八・〇七〇	八・五九七	八・八五三	九・三九三	九・八二七	九・七二七	九・八六七	七・八六三	七・九九〇	七・五四三
四十四年	八・一六七	八・四八七	八・四四三	八・五〇	九・三五〇	九・四五〇	九・九四〇	一〇・四〇〇	一〇・二七〇	九・〇六七
四十五年	九・九一七	一〇・四三三	一〇・四六三	一〇・六〇〇	一〇・八一〇	一〇・六三〇	一〇・五四七	九・九〇七	九・八八〇	九・五七〇
大正二年	一〇・三一〇	一〇・一八〇	一〇・〇四〇	一〇・一六〇	一〇・四四〇	一〇・四九〇	一〇・六六〇	一〇・四一七	一〇・五〇〇	一〇・五七〇
三年	一〇・八〇〇	一〇・七五〇	一〇・七三〇	一〇・九四〇	一〇・九四〇	一〇・九四〇	一〇・六八〇	九・九二〇	一一・三三〇	一一・一九〇
四年	八・四〇〇	八・六五〇	八・六九〇	八・四九六	一〇・九五〇	一一・三〇〇	一一・四〇〇	一一・〇四〇	一〇・〇三〇	八・七八〇
五年	九・一〇〇	九・一四〇	九・二六〇	九・六六〇	一〇・〇〇〇	一〇・〇〇〇	一〇・三三〇	一一・四八〇	七・七六〇	八・六八〇
六年	一一・三三〇	一一・八八〇	一一・〇三〇	一一・五六〇	一二・三三〇	一三・三五〇	一四・〇〇〇	一四・五四〇	八・〇一〇	八・六六〇
七年	一五・五六〇	一七・二三〇	一八・三四〇	一七・三七〇	一五・六九〇	一六・三五〇	一六・一五〇	一六・八四〇	一七・〇八〇	一七・八八〇
平均	九・七三四	九・九五四	一〇・一五三	一〇・二四三	一〇・四六七	一〇・五五二	一〇・五五一	一〇・六八七	一〇・六一六	一〇・三四六

此大豆の月別平均相場に就きて、大正三年までと大正七年までとの月次的百分比例を對照するに、左の如くである。

月	大正三年まで百分比例	(＋)又は(－)	大正七年まで百分比例	(＋)又は(－)
一月	96.3	(＋)	94.4	(－)
二月	97.4	(＋)	96.5	(＋)
三月	97.8	(＋)	97.5	(＋)
四月	99.8	(＋)	98.6	(＋)
五月	101.3	(＋)	99.3	(＋)
六月	102.8	(＋)	101.5	(＋)
七月	103.6	(＋)	102.2	(＋)
八月	103.4	(－)	103.4	(＋)
九月	102.3	(－)	103.6	(＋)
十月	102.0	(－)	103.0	(－)
十一月	97.9	(－)	100.3	(－)
十二月	95.2	(－)	99.6	(－)

大正三年までの月次的變動を觀るに、七月が最高で、十二月が最低である。又、上り坂も下り坂も共に何等の例外なく、滑かである。之に反して大正七年までの月次的變動に於ては、八月が最高點であつて、一月が最低相場を示してゐる。即ち兩者共に大正三年までと較べると一ヶ月宛後れてゐる。然しながら、上り坂も下り坂も全然滑かになつてゐる。最高月と最低月とが異なつてゐるにも拘らず、坂が雙方共完全なる斜面を示してゐるのは、大豆の卸相場が如何に規則正しく變動してゐるかを明かにするものであると思ふ。

大豆が八月より低落し始むるは、勿論收穫の關係に依るものと看做し得る。

次表は明治三十四年より大正七年に至る十八年間に於ける小豆の月次的卸相場と其の月別的平均とを示したものである。

小豆卸相場（北海道產一石）

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
明治三十四年	六・五〇四	五・九九七	六・二一〇四	五・七三一四	五・九六六四	六・五八二四	七・三六五四	七・三三一四	七・三〇八四	七・四二三四	七・三八二四
三十五年	八・一四三四	九・八一七四	一〇・四一三四	一〇・九五三四	一一・七六九四	一三・五五〇四	一三・八四四四	一三・五八九四	一三・九〇三四	一〇・七五三四	一一・五四一四	一二・〇三〇四
三十六年	一一・八八一四	一一・一〇五四	一一・〇六三四	一一・九五一四	一二・八五〇四	一三・七一〇四	一三・七一〇四	一四・一四二四	一三・六一一四	一〇・八八〇四	一〇・八〇二四	一〇・六五〇四

三十七年	二〇・五六四	二〇・二四〇	二〇・一六二	二〇・一四〇	二〇・二一〇	二〇・〇二五	二〇・四六六	二〇・五四〇	二〇・五六〇	二〇・〇〇〇	二〇・六六六	二〇・五六六
三十八年	二〇・四四二	二〇・一二四	二〇・〇二二	二〇・六一四	二〇・六六四	二〇・三三四	二〇・〇六二	二〇・五二〇	一〇・六六六	一〇・六四一	二〇・六六〇	二〇・二四四
三十九年	二〇・五二六	二〇・二四五	二〇・五二二	二〇・一六二	二〇・二二〇	二〇・〇六二	二〇・〇四五	二〇・二二〇	二〇・六〇〇	二〇・〇〇〇	二〇・四四〇	二〇・五二〇
四十年	二〇・五六六	二〇・六五二	二〇・六六〇	二〇・二〇〇	二〇・二〇〇	二〇・〇〇〇	二〇・二五〇	二〇・六〇〇	二〇・六四四	二〇・六二四	一〇・六二四	一〇・六二二
四十一年	一〇・二六〇	一〇・〇二〇	九・五六〇	九・六六〇	九・六〇〇	九・二六〇	一〇・一五〇	一〇・六六〇	一〇・一一〇	一〇・六〇〇	九・六六〇	九・六〇〇
四十二年	一〇・五一〇	二〇・〇〇〇	二〇・四〇〇	二〇・二〇〇	二〇・〇六六	二〇・五〇〇	二〇・五〇〇	二〇・二二二	二〇・六二〇	二〇・〇〇〇	一〇・五〇〇	一〇・六四〇
四十三年	二〇・二二〇	二〇・五〇〇	二〇・四〇〇	二〇・五〇〇	二〇・〇〇〇	二〇・六〇〇	二〇・六〇〇	二〇・六〇〇	二〇・一〇〇	二〇・五二二	二〇・二四二	二〇・二二〇
四十四年	二〇・六〇〇	二〇・二六〇	二〇・二〇〇	二〇・二〇〇	二〇・一〇〇	一〇・六六〇	一〇・六〇〇	二〇・六一〇	二〇・四四〇	二〇・〇〇〇	二〇・〇〇〇	二〇・〇〇〇
四十五年	二〇・二二〇	二〇・五五〇	二〇・五六〇	二〇・六一〇	二〇・五〇〇	一九・四四〇	一九・二二〇	一九・二二〇	二〇・四五〇	二〇・四〇〇	二〇・二二〇	二〇・〇六〇
大正二年	一九・四六〇	二〇・五六〇	二〇・六一〇	二〇・四〇〇	二〇・六二〇	一九・二四〇	一九・四〇〇	二〇・一〇〇	一九・一四〇	一九・五〇〇	二〇・四四〇	二〇・一六〇
三年	一九・一六〇	一九・一六〇	一九・一六六	一九・二〇〇	一九・二〇〇	一九・二五〇	一九・六〇〇	一九・〇〇〇	一九・六二〇	二〇・二二二	二〇・四五〇	二〇・六〇〇
四年	二〇・四〇〇	二〇・六〇〇	二〇・二五〇	二〇・六六〇	二〇・六六〇	二〇・六四〇	二〇・六四〇	二〇・二二〇	二〇・二五〇	二〇・六六〇	二〇・四四〇	二〇・六〇〇
五年	二〇・六二〇	二〇・六五〇	二〇・六二〇	二〇・六六〇	二〇・四五〇	二〇・四〇〇	二〇・四〇〇	二〇・一六〇	二〇・〇五〇	二〇・〇〇〇	一九・五五〇	一九・六〇〇
六年	二〇・五六〇	一九・二四〇	一九・二二〇	二〇・〇〇〇	二〇・〇四〇	二〇・四〇〇	二〇・六〇〇	一九・六〇〇	一九・一〇〇	一九・六六〇	二〇・〇二〇	一九・六〇〇
七年	二〇・一四〇	二〇・二〇〇	二〇・六四〇	二〇・四五〇	一九・二〇〇	一九・六六〇	二〇・六四〇	二〇・六二〇	二〇・四五〇	二〇・〇〇	一九・二〇〇	
平均	二〇・四四一	二〇・二〇〇	二〇・〇二〇	二〇・一六五	二〇・五六六	二〇・六〇六	二〇・四〇二	二〇・六〇一	二〇・五〇〇	二〇・一六九	二〇・五五一	二〇・六六六

月	大正三年まで 百分比例	(＋)又は(－)	大正七年まで 百分比例	(＋)又は(－)
一　月	95.7	(－)	95.2	(－)
二　月	96.8	(＋)	96.4	(＋)
三　月	97.5	(＋)	97.3	(＋)
四　月	98.0	(＋)	98.6	(＋)
五　月	100.1	(＋)	102.0	(＋)
六　月	102.7	(＋)	101.9	(－)
七　月	106.1	(＋)	102.4	(＋)
八　月	106.9	(＋)	103.4	(＋)
九　月	105.0	(－)	101.5	(－)
十　月	98.5	(－)	98.3	(－)
十一月	96.1	(－)	100.8	(＋)
十二月	96.6	(＋)	102.2	(＋)

大正三年までの小豆卸相場の月次的變動を觀るに、最低月が一月であつて、最高月は八月である。又二月から八月までの上り坂は滑かであるが、九月から一月ま

での下り坂は完全でなくして、十二月に一寸爪先上りになつてゐる　次に大正七年までの月次的變動は何うであるかと云ふに、一月が最低月であり、八月が最高月である點は、大正三年までの變動に於けると同樣であるが、坂は滑かでない。二月より八月に至る上り坂は六月に爪先下りとなり、又九月より一月までの下り坂は十一月並に十二月に於て爪先上りになつてゐる。

小豆が九月より低落するのも、同じく新豆の供給に依るものなることは言ふまでも無い。

次は同じく明治三十四年より大正七年に至る十八ヶ年間に於ける醬油一樽の卸相場と其の月別的平均とである。

醬油卸相場（中一樽）

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
明治三十四年	一四〇一三	一四〇五五	一四〇五〇	一四〇七八	一四〇八三	一四〇三七九	一四〇三七九	一四〇三五九	一四〇九二	一四〇九三	一四〇三七〇	一四〇三三
三十五年	一二〇七七	一二〇九〇	一二〇九〇	一二〇五三	一二〇二六	一二〇二八二	一二〇二六六	一二〇三五五	一二〇三六二	一二〇三六六	一二〇九二	一二〇九二
三十六年	一二〇五〇	一二〇二九二	一二〇二五五	一二〇二五三	一二〇二五三	一二〇二八二	一二〇二六六	一二〇三一九	一二〇四五六	一二〇五〇四	一二〇三七〇	一二〇五〇
三十七年	一二〇五〇	一二〇六二六	一二〇七二	一二〇六〇八	一二〇五一一	一二〇五〇六	一二〇五二七	一二〇六二	一二〇六三九	一二〇六二六	一二〇六三九	一二〇〇四
三十八年	一二〇六三七	一二〇六三九	一二〇七二六	一二〇七一八	一二〇六五六	一二〇六九二	一二〇七七九	一二〇九〇一	一二〇八一八	一二〇五六〇	一二〇五八五	一二〇四九七
三十九年	一二〇四九三	一二〇四九九	一二〇三六九	一二〇四九九	一二〇四二九	一二〇四二九	一二〇四二九	一二〇三八九	一二〇三八九	二二〇〇〇	二二〇〇〇	一二〇八六一
四十年	一二〇九六一	一二〇九六一	一二〇九六一	二二〇〇〇	一二〇九三四	一二〇八一八	一二〇七四四	一二〇八〇二	一二〇八八七	一二〇九二三	一二〇八八七	一二〇八六九
四十一年	一二〇八一八	一二〇八一八	一二〇八一八	一二〇七九六	一二〇六八三	一二〇六六六	一二〇六九二	一二〇七八二	一二〇七八六	一二〇七八六	一二〇七八六	一二〇七八六
四十二年	一二〇七八六	一二〇七八六	一二〇七六八	一二〇七六八	一二〇七五九	一二〇七五四	一二〇七五四	一二〇七五四	一二〇七五四	一二〇八四九	一二〇八四九	一二〇八四九
四十三年	一二〇八五二	一二〇八五二	一二〇八五二	一二〇八五二	一二〇七八六	一二〇七八六	一二〇七八六	一二〇八〇五	一二〇八五二	一二〇八三五	一二〇八〇二	一二〇七二七
四十四年	一二〇七二四	一二〇六六七	一二〇六六九	一二〇五七五	一二〇五八九	一二〇五八九	一二〇五八七	一二〇六〇〇	一二〇六〇〇	一二〇六三九	一二〇六一三	一二〇五六六
四十五年	一二〇五六三	一二〇五六三	一二〇六一一	一二〇四五四	一二〇六一六	一二〇六六七	一二〇六〇五	一二〇〇〇	一二〇五八二	一二〇五八七	一二〇五八九	一二〇五八九
大正二年	一二〇五六〇	一二〇四九九	一二〇五五〇	一二〇五三八	一二〇五六三	一二〇六〇〇	一二〇六一三	一二〇六一三	一二〇六一三	一二〇六一三	一二〇六一三	一二〇六一三
三年	一二〇六一三	一二〇六一三	一二〇五八三	一二〇五三八	一二〇四九三	一二〇四九三	一二〇五二四	一二〇五六三	一二〇五四一	一二〇五五八	一二〇五五八	一二〇五五八
四年	一二〇四九三	一二〇四九三	一二〇五三八	一二〇五五八	一二〇五三七	一二〇四四九	一二〇四四九	一二〇四四九	一二〇四七一	一二〇四七一	一二〇四四九	一二〇四四九
五年	一二〇七八六	一二〇八三一	一二〇七五四	一二〇七二四	一二〇六九五	一二〇六九五	一二〇六九五	一二〇六九五	一二〇七七九	一二〇八四五	一二〇九五五	二二〇二一七
六年	二二〇五五三	二二〇〇七七	一二〇八九〇	一二〇九二三	一二〇八五五	二二〇二八八	二二〇五一九	二二〇六六〇	二二〇五七〇	二二〇二九三	二二〇二七三	二二〇二七三
七年	二二〇二七四	二二〇三八一	二二〇七〇三	二二〇五六四	二二〇五六四	二二〇五六四	二二〇四三八	二二〇五六四	二二〇九四一	三二〇二五	三二〇三三〇	三二〇三三〇
平均	一二〇六九八	一二〇六八六	一二〇七〇七	一二〇六七〇	一二〇六四〇	一二〇六三九	一二〇六五四	一二〇六九八	一二〇七四二	一二〇七八五	一二〇七五五	一二〇七六四

此相場表に基きて、大正三年までと大正七年までとの月次的變動の百分比例を比較すれば、左の通りである。

月	大正三年まで百分比例	(+)又は(−)	大正七年まで百分比例	(+)又は(−)
一月	101.1	(±)	99.6	(−)
二月	100.4	(−)	98.9	(−)
三月	101.4	(+)	100.1	(+)
四月	99.1	(−)	97.9	(−)
五月	97.1	(−)	96.2	(−)
六月	96.2	(−)	96.1	(−)
七月	97.3	(+)	97.0	(+)
八月	99.2	(+)	99.6	(+)
九月	101.1	(+)	102.2	(+)
十月	103.5	(+)	104.7	(+)
十一月	102.6	(−)	104.1	(−)
十二月	101.1	(−)	103.5	(−)

大正三年までの月次的變動を觀るに、最低の相場を示せるは六月であつて、最高は十月になつてゐる。而して七月より十月に至る上り坂は完全であるが、十一月より六月までの下り坂は左程滑かで無い。即ち一月の相場は十二月と同一であり、且つ三月には爪先上りになつてゐる。大正七年までの變動に於ては、六月は最低で、十月が最高である　又、七月より十月に至る迄の上り坂は完全であるが、十一月より六月までの下り坂に於ては、三月に一回爪先上りになつてゐる

醬油の市價が十一月より漸次低落してゐるのは、製造期の影響を受くる爲めであらう。即ち供給が豐富になるからである。

次に掲ぐる表は同じく明治三十四年より大正七年に至る十八ヶ年間に於ける味噌十貫目に對する東京市内の卸相場と其卸相場の月別平均を載せたものである。

味噌卸相場（麥麹十貫目）

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
明治三十四年	二圓〇〇	二圓〇〇	二圓七〇	二圓四〇	二圓二〇	二圓〇〇	二圓〇〇	二圓五〇	二圓五〇	二圓五〇	二圓二〇	二圓一〇

明治三十五年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
三十六年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	九九・〇	九九・〇	九九・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
三十七年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
三十八年	一〇〇・〇	九七・〇	一一〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
三十九年	一一〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一一〇・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一一〇・〇	一一〇・〇
四十年	一一〇・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
四十一年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一一〇・〇
四十二年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇
四十三年	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇
四十四年	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九四・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九四・〇
四十五年	九四・〇	九七・〇	一〇〇・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一一四・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正二年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
三年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	九九・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	九四・〇	九七・〇
四年	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇
五年	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	一〇一・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一〇一・〇	九九・〇	一〇一・〇
六年	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	九七・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇
七年	九九・〇	九九・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九七・〇	九九・〇	九九・〇	九九・〇
平均	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇	一〇一・〇

此味噌の相場表に依りて、大正三年までの月次的變動と、大正七年までの月次的變動とを比較すれば、左の如くになる。

月	大正三年まで 百分比例	大正三年まで (+)又は(−)	大正七年まで 百分比例	大正七年まで (+)又は(−)
一月	100.0	(−)	96.8	(−)
二月	99.3	(−)	97.6	(+)
三月	99.1	(−)	98.5	(+)
四月	98.6	(−)	96.9	(−)
五月	98.9	(+)	96.6	(−)
六月	98.9	(±)	97.0	(+)
七月	99.9	(+)	98.3	(+)
八月	100.5	(+)	101.6	(+)
九月	100.9	(+)	102.6	(+)
十月	101.6	(+)	104.3	(+)

十一月　101.3　（一）　105.0　（十）
十二月　100.8　（一）　105.0　（十一）

大正三年までの月次的變動は如何と云ふに、四月が最低であつて、十月が最高になつてゐる。次に十一月より四月に至る下り坂は全く滑かであるが、五月より十月までの上り坂に於ては一の例外がある。夫れは五月の九八・九に對して六月も亦同じく九八・九になつてゐることに外ならないが、是れは殆んど問題とするに足らないと思ふ。然らば大正七年までの變動は何うであるかと云ふに、最低月は五月であつて、最高月は十一並に十二の兩月になつてゐる。而して六月より十一月に至る上り坂は滑かであるが、一月より五月に至る下り坂は不規則である。即ち二月三月共に爪先上りになつてゐるのみならず、四月は爪先下りにはなつてゐるが、其相場は尚ほ一月の相場よりも高い。

味噌の相場も亦十一月に入りて低落するのは、製造期の影響を受けるものと思はれる。

次表は同一期間内に於ける山城近江産中等製茶一貫目の卸相場並に其の月別平均を示したるものに外ならない。

製茶卸相場（山城近江産中一貫目）

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
明治三十四年	二・〇一〇	二・〇二五	一・九七三	一・八八〇	一・八四一	一・八四〇	一・八一七	一・七九一	一・七九七	一・八四四	一・八四九	一・八一三
三十五年	一・八二五	一・八八〇	一・八四二	一・八三九	一・九二三	一・九五九	一・九三二	一・九一三	一・九三七	一・九八二	一・九八七	一・九八七
三十六年	二・〇二〇	二・〇七五	二・〇九八	二・〇九〇	二・一三五	二・一〇五	二・〇四〇	二・〇三〇	二・〇〇九	一・九八〇	一・九五〇	一・九〇〇
三十七年	一・八七〇	一・八六〇	一・八四〇	一・八〇〇	一・七九〇	一・七六〇	一・七二八	一・六八八	一・六九四	一・七一八	一・七三〇	一・七〇九
三十八年	一・七三五	一・七六三	一・八二四	一・八〇七	一・八三三	一・八一八	一・七七五	一・七五〇	一・七九二	一・八二八	一・八六二	一・八二四
三十九年	一・七九三	一・七八〇	一・七五二	一・六九九	一・七一〇	一・七四〇	一・七六〇	一・七六〇	一・七六〇	一・七四〇	一・七三〇	
四十年	一・七二三	一・七四一	一・七二六	一・七二〇	一・六七〇	一・七八〇	一・七七〇	一・八〇〇	一・八二〇	一・八四六	一・八四七	
四十一年	一・八八三	一・八三〇	一・九八〇	一・九八〇	一・八三一	二・〇一〇	二・〇三〇	二・〇三〇	二・〇一〇	一・九五〇	一・八八〇	
四十二年	一・八五〇	一・八七〇	一・八七〇	一・八五〇	一・八四〇	二・〇一〇	二・〇〇〇	二・〇〇〇	二・〇一〇	一・八八〇	一・八五〇	
四十三年	二・〇〇六	二・〇〇〇	一・八〇〇	一・八五〇	一・九四〇	二・〇〇〇	二・〇三〇	二・〇三〇	二・〇〇〇	二・〇三〇	二・〇六〇	
四十四年	一・九九〇	二・〇〇五	二・〇一〇	二・〇〇〇	二・〇〇〇	二・〇四〇	二・〇四〇	二・〇三〇	二・〇一〇	二・〇〇〇	一・九八〇	
四十五年	二・一一〇	二・〇九〇	二・〇八〇	二・〇八〇	二・〇六〇	二・〇四〇	二・〇三〇	一・九八〇	一・九七〇	一・九四〇	一・九三〇	
大正二年	一・九一〇	一・九〇〇	一・八九〇	一・八九〇	一・八八〇	一・八五〇	一・八六〇	一・八八〇	一・八七〇	一・八五〇	一・八四〇	
三年	一・七九〇	一・八一〇	一・八〇〇	一・七八〇	一・八一〇	一・八一〇	一・八一〇	一・八一〇	一・八一〇	一・七九〇	一・七九〇	

第二十一卷　（一〇〇一）　物價の月次的變動

四　年	一・八八〇	二・〇四〇	二・一二〇	二・一四〇	二・一四〇	二・一四〇	二・一四〇	二・一四〇	二・一四〇	二・一四〇	二・一四〇
五　年	二・一四〇	二・一八〇	二・一八〇	二・一四〇	二・一四〇	二・一四〇	二・一一〇	二・一一〇	二・〇六〇	二・〇六〇	二・〇六〇
六　年	二・一四〇	二・一五〇	二・一四〇	二・一〇〇	二・一一〇	二・一四〇	二・一四〇	二・一八〇	二・一八〇	二・一六〇	二・一六〇
七　年	二・五二〇	二・五四〇	二・四〇〇	二・四四〇	二・五四〇	二・五四〇	二・五四〇	二・五四〇	二・五四〇	二・五四〇	二・五四〇
平　均	一・九四六	一・九四三	一・九六六	一・九四八	一・九四一	二・〇四〇	二・〇一八	二・〇一八	二・〇一八	二・〇四〇	二・〇四一

左表は右表の數字に基きて計算したる大正三年までと、大正七年までとの月次的變動の比較である。

月	大正三年まで百分比例	(+)又は(−)	大正七年まで百分比例	(+)又は(−)
一　月	99.8	(−)	97.3	(−)
二　月	100.9	(+)	98.6	(+)
三　月	100.1	(−)	98.3	(−)
四　月	98.8	(−)	97.4	(−)
五　月	98.7	(−)	99.6	(+)
六　月	100.9	(+)	101.4	(+)
七　月	100.1	(−)	100.9	(−)
八　月	100.4	(+)	101.4	(+)
九　月	99.6	(−)	100.8	(−)
十　月	100.3	(+)	101.4	(+)
十一月	100.2	(−)	101.5	(+)
十二月	100.2	(+)	101.5	(±)

右表に明示されてゐる如く、茶の卸相場の月別的平均は、大正三年までを取るも、大正七年までを取るも、一ヶ月若しくは二ヶ月毎に高下して居つて、毫も規則正しき月次的變動と看做す可きものが無い。尤も大正七年までの平均を取れば、一月より五月までは低く、六月より十二月までは高くなつてゐる。即ち前の五ヶ月の月別平均は皆な一〇〇以下であり、後の七ヶ月の月別平均は一〇〇以上になつてゐる。從つて大正七年までの平均を取れば多少の季節的變動があると云ひ得る。然るに大正三年までの平均に於ては、此季節的變動すらない。加之大正七年までの月別平均に於て、季節的變動があると云ふも、戰時の變態の影響を受けてゐるの

であるから、之に大なる意義を與へることは出來ない。

尙ほ大正三年までの月別平均を觀るに、四五兩月の相場は最も低い。是れも矢張り收穫の關係より生じてゐるものと思はれる。

最後に掲ぐるは、同一期間に於ける上海玉子十貫目の卸相場並に其の月別平均に外ならない。

鷄卵卸相場（上海玉子十貫目）

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
明治三十四年	一三・八三〇	一三・一六〇	一〇・六二九	一〇・三三〇	一一・〇三一	一一・四一七	三・九七〇	一六・三三〇	一六・四〇〇	一四・九三五	一三・一〇〇	一一・一〇〇
三十五年	一一・三〇〇	一〇・七六六	九・六四五	九・五八三	一〇・〇四八	一〇・六六七	一三・五〇〇	一五・〇〇〇	一五・六六七	一五・八七一	一一・八〇〇	一一・一六一
三十六年	一三・一四五	一一・四四八	一〇・八三三	一一・〇〇〇	一〇・七六七	一一・八七六	一三・九一九	一四・三三六	一七・五六七	一六・四八四	一五・〇八三	一三・八〇六
三十七年	一一・四八四	一三・五五二	一〇・六九四	一〇・一〇〇	一〇・三三二	一一・七六〇	一四・九一九	一六・一一三	一六・八一七	一六・六〇〇	一七・八五五	一五・二五〇
三十八年	一五・五〇〇	一三・五〇〇	一三・三五五	一三・四〇〇	一三・九四一	一五・一六七	一八・三〇〇	一九・九〇〇	一九・七六七	二〇・五〇〇	一六・三三三	一四・五〇〇
三十九年	一四・八三三	一四・六六七	一三・七四九	一三・八五〇	一三・九五一	一四・五六七	一五・七五〇	一八・九〇〇	二〇・七五〇	二〇・五〇〇	一八・一六七	一四・七五八
四十年	一四・六四五	一三・七六八	一四・五〇〇	一五・四三三	一四・二〇〇	一六・〇〇〇	一八・五〇〇	二二・〇〇〇	二〇・二五〇	一七・〇〇〇	一六・九〇三	一六・〇〇〇
四十一年	一五・四五二	一二・九八三	一二・五六八	一二・八一七	一三・〇七七	一二・七六七	一五・一四五	一七・七〇九	一八・八八三	一七・六四一	一七・〇〇七	一五・一七七
四十二年	一四・五三二	一四・四六八	一三・一六七	一三・二〇	一二・九一九	一四・〇〇〇	一六・五六四	一七・六一三	一八・九〇〇	二〇・五八一	一八・五五〇	一六・四八八
四十三年	一七・二二四	一四・六〇七	一二・八三九	一二・八三二	一三・六三五	一六・七二四	二〇・五九七	二一・六六七	二一・四三五	二〇・八三三	一六・八一三
四十四年	一六・七二四	一四・九二九	一三・三三九	一四・一七三	一四・八四四	一五・六三三	一六・〇八〇	二〇・五八一	二二・六六七	二二・五四八	二〇・〇〇〇	一八・七四一
四十五年	一九・〇一六	一五・六五五	一四・二一〇	一四・八五	一五・〇四二	一六・六三三	一八・四一〇	一九・九三五	二〇・〇八三	二一・五三三	二一・五三三	一九・九六八
大正二年	一八・一〇〇	一六・三二四	一五・一〇六	一五・六〇〇	一六・〇〇〇	一六・七六七	一九・〇〇〇	二一・五〇〇	二三・六六七	二四・〇〇〇	二三・四一七	一九・七五〇
三年	一八・三五〇	一六・四一〇	一六・三五〇	一五・七四〇	一五・一一〇	一六・四一〇	一六・五四〇	一七・六〇〇	二〇・一〇〇	一九・八三〇	一九・〇七〇	一八・二八〇
四年	一五・八三〇	一五・〇六〇	一四・五二〇	一四・五六〇	一四・〇〇〇	一三・九一〇	一四・〇〇〇	―	一八・〇五〇	一九・四〇〇	一八・七九〇	一八・六七〇
五年	一六・〇五〇	一五・六〇〇	一五・三三〇	一四・七八〇	一四・二五〇	一五・二一〇	一六・五〇〇	一九・三五〇	二〇・二五八	二三・八一〇	一九・一九〇	
六年	一七・三五〇	一六・九八〇	一五・一三〇	一五・二三〇	一六・九四〇	一七・四〇〇	一九・五〇〇	―	二四・五一〇	二九・七一〇	二五・四三〇	二三・四三〇
七年	一四・七〇〇	一九・四一八	二〇・四七〇	二二・〇〇〇	二二・七五〇	二四・五六〇	二九・〇〇〇	二九・六三〇	三六・五〇〇	四四・〇〇〇	四七・〇七〇	三八・六四〇
平均	一五・九二九	一四・五二一	一三・六三八	一三・六〇	一三・八九四	一四・九三四	一六・八八二	一八・九五二	二〇・八八八	二一・六〇二	二〇・五四一	一七・九一一

左表は此上海玉子の卸相場表に基きて計出したる大正三年までと、大正七年までとの百分比例の比較を示したものである。

月	大正三年まで 百分比例 (+)又は(−)	大正七年まで 百分比例 (+)又は(−)
一月	96.3 (−)	95.0 (−)
二月	87.8 (−)	86.5 (−)

三月	81.5	(−)	81.3	(−)
四月	81.4	(−)	81.6	(+)
五月	82.4	(+)	82.8	(+)
六月	89.5	(+)	89.0	(+)
七月	101.7	(+)	100.7	(+)
八月	115.2	(+)	100.4	(−)
九月	125.6	(+)	124.5	(+)
十月	124.6	(−)	128.8	(+)
十一月	113.4	(−)	122.5	(−)
十二月	100.7	(−)	106.8	(−)

先づ大正三年までの月次的變動に就きて之を觀るに、四月の八一・四を最低とし、九月の一二五・六を最高としてゐる。而して五月より九月に至る上り坂と、十月より四月に至る下り坂は全く完全なる傾斜面を爲してゐる。之に反して、大正七年までの變動に於ては三月の八一・三が最低であつて、十月の一二八・八が最高である。

又、十一月より三月に至る下り坂は全く滑かであるが、四月より十月に至る上り坂には爪先下りになつてゐる月が一つ（八月）ある。

最後に鷄卵が五月より騰貴し始め、夏期を通じて、高價を維持し、十月に入りて下落し始めながら、尙ほ十二月まで著しく低落しないのは、夏期に於ては、鷄卵の生産が少ないのみならず、腐敗し易く、且つ此腐敗を豫防するには、相當の設備と手數とを要するからである。

以上九種の貨物の卸相場に關して述べたることを綜合すれば、各貨物の市價に生ずる月次的變動は、勿論皆な夫れ夫れ其の狀態を異にしてゐるが、次の如き數箇の概括的斷定を下し得るが如く見える。

（一）九種の貨物は皆な大體に於て一年中需用に著しき增減のなきものであるが故に、市價は需用よりか、寧ろ供給に依りて支配せられてゐる。即ち收穫期、生産期、若しくは製造期に於て、市價は安く、然らざるときには高い。

（二）一年の中にて或る月（收穫、生産の增加（鷄卵）若しくは製造の始まる前の月の相場が最も高く、又或る月（收穫若しくは製造盛期の終りたる後か、或は鷄卵

の如く生産の減少し始める前の月)の相場が最も低い。

(三) 相場は最も高き月より最も低き月まで漸次低落し、最も低き月より高き月までは月々少しつゞ騰貴してゐる。是れには勿論例外がある。

(四) 大正三年までの月別平均と大正七年までの月別平均とを比較するに、大正三年までの月別平均に於ては右の例外が大正七年までの月別平均に於けるよりも少なくなつてゐる。

"Piers the Plowman" を通じて見たる英國社會狀態

野村兼太郎

一

本稿を起草するまでに參照せゝることを得た書目は左の如くである。

(I) "The Vision of William concerning Piers the Plowman" by William Langland, edited by Walter W. Skeat. (Clarendon Press Series) Oxford, 1906.

(II) William Langland, "The Vision of Piers The Plowman" done into Modern English by W. W. Skeat. (The Medieval Library) London, 1922.

(III) "Piers The Ploughmans Crede" edited by W. W. Skeat. Oxford, 1906.

(VI) The Works of Geoffrey Chaucer, edited by W. W. Skeat. 5 vols. Oxford, 1900.

(V) "Liber Albus" (Munimenta Gildhallae Londoniensis) edited by H. T. Riley. Rolls Series, 1895.